



行 役 場
東 村 所
瀧 印 刷
印 刷 株 式 会 社
北 洋 印 刷

一月のメモより

一、中之口村上水道に加入の件
(本村簡易水道の功績)
本村は至るところ天然ガスに恵まれ、自家用ガスの普及に際下第一と申しても憚(はば)りありませぬ。即ち本県の調査(昭和三十六年二月)によりますと井戸の本数は県下合計で自噴、圧搾を合わせて六、四四〇本で、その多い処から挙げる。

白根市 二、二〇三本
黒崎村 七〇七本
湯東村 五九四本
新津市 五七〇本
中之口村 四八七本
西川町(升瀧村を含む) 三六六本
味方村 三五五本
月瀧村 三〇〇本
新潟市 二九八本
その他 五六〇本

でありまして、面積の比率からして、県下第一と申しても差支ありませんでしょう。それだけ新燃燃料に乏しい本村の受けの恩恵は如何程大きいかは、皆さんのよくよくご存知のことと存じます。
その半面飲料水ということとなると甚だ恵まれない。本日に飲料に適する水がどれだけあったか。ただけ掃で有ったでしょう。それだけ婦人の方々の苦労は大変のものであります。

のであります。幸い各部落の有志者の方々の発意と皆さんの協力で旧四ツ合村の全村と旧大原村の今井部落の簡易水道が設置されただけで無く、保健衛生の面からも非常なる効果を挙げて来ました。
(一)中之口村の上水道の発足
隣りの中之口村は、中之口川に沿うた部落は旧四ツ合村と同じく、簡易水道を設置して、その恩恵に浴して居られましたが、大部分は飲料水に悩まつつありました。中、中之口村として上水道を計画し着々その工事を急ぐことに踏み切られました。
一方旧大原村では今井部落だけ簡易水道設置をいたしました。その効果も十二分に満喫しつつあります。他部落は飲料水に悩まつつありましたが、時代の進運に鑑み、完全な飲料水を求むる要望が毎日に強くなつて来少数ですが、完全な施設をするには少人数では、非常に割高になり、その負担に堪え無し、ざりとして従来の簡易水道を設置しても、衛生の面から将来性が無いので、寧ろ中之口村の上水道に加入するに如かずとして遂に同水道に加入したのであります。

旧大原村の内今井部落は最初から加入することに計画されて居りましたが、簡易水道の設置に相当の出費をして来たため、低額の費用料で、しかもふんだんに水が使用出来、その上加入するに加入金を徴収されるので、当分加入を拒否して来たのであります。然し実際は、しばしば断水があり、濁水があり、その上保健所の検査に「不適」とあらわれますので、中之口村と交渉して「組合員は凡て無償で加入を認める」「施設は全部中之口上水道部へ引き渡す」とを条件として、昨年暮に中之口村上水道に加入したのであります。

私は七ヶ年間今井簡易水道の恩恵を受けて来たものであります。設置前と比較して、そのあり難たさに、常に感謝して来たのであります。常に、此の度、上水道の通水を見るに至り、その水圧の強いこと、水の綺麗なこと、安心して飲めること、一旦火災のときの消火栓設置による安全感に心から嬉れしく存じて居ります。
(二)中之口上水道の料金
中之口村の上水道の料金は、一ヶ月一〇立方メートルまで三百三十円、計量器使用料は二十五円で、合計一ヶ月三百五十五円であります。

超過料金は一立方メートルにつき三十五円あります。
私は未だ加入後目浅く申し上げ難いのが、経験者の話によると、六人家族で毎日風呂を立てても(立てかえしでなく)特別のことが無ければ夏の二ヶ月位を除けば、超過は無いそうです。
四、保健所からの警告
保健衛生は、文化国家建設の重要な仕事の一つであり、飲料水はその内でも重要でありますので、その改善についての指導は、年を追って強化されるのは蓋し当然のことと有り、且つあり難いこととあります。本村の簡易水道も設置当時の基準では充分の管であったでしょうが、年をふりにつれて弱体化したか、或は検査が強化されたか、は深く調査いたしません。が、殆ど毎回の調査に「不適」の通告を受けるに至りましたので関係者の方と協議して、村は指導員委嘱に協力し、その上更に消毒を強化する薬品の実物を提供することと、指導員のため昨年は五万三千円を、薬品は十月より半年分金六十一万八千二百円を予算に計上して「よい水」の確保に努めて来たのであります。それが昨十二月の検査では西部以外は全部不適となりましたので保健衛生上由正しいことと、心を痛めるに至りました。

(四)五之上部落の水不足
簡易水道の内五ノ上水道は設置当時の設計の不備のためか、最初より給水不足の嘆(なげき)がありましたが、施設の老朽か、使用量の増加か、年を追ってその不足を訴ふるに至りました。矢先き、味方村の地盤沈下復旧工事のため、その不足は極に差し、断水また断水のため水質も低下し、不衛生的の給水で、その止むなきに研究されたので、部落として対策を研究した結果、今更多数の出費として不完全な水道工事をすることは、時代に鑑み不適当であるので至急既設の上水道に加入するに如かずと一決して、村にその促進法を要請されるに至りました。

(六)水道についての現在の悩み
以上述べました様に、保健衛生の根幹をなす水道につき幾多の悩みがあります。その主なるものを要約しますと
(一)旧大原村と不統一であること。
即ち旧大原は中之口上水道に加入し旧四ツ合には七つの簡易水道があること。
(二)その簡易水道の大部分は不満足の状態にあり村で困難なこと。
(三)その効果を挙ぐるに困難なこと。
(四)味方村の地盤沈下復旧工事は、三十七年度は更に強化せらるるため、五之上部落の悩みは一層増大し、夏期に向うにつれその不安は一層増加し遂にも、不測の不祥事も起ることもあり得ること
(五)大原地区は中之口上水道に加入しても、これに対し執行権も職権も無いこと。
(六)中之口上水道の施設は必要以上で大規模であるためと、使用水量が予定より少ない(超過使用者が少ないこと)ため予定借入金金の償還金を不足して加入者から徴収の必要を生じたため、中之口村は村の一般会計から支出するが、大原則は各加入者の収入の如何を問わず一律に年三千元を徴収せざるを得なくなつたため物議をかもし始めたこと。
等々がありますので適切な方途を講ずる必要が生じたのであります(対策を立てるための調査)
(七)中之口村の調査
旧大原村が全部加入して居る中之口村への加入が、最も適当と考えた。その訳は旧四ツ合村だけで上水道を計画して規模が小さいため、経費が割り高くなる。昨年来の物価の高騰のため一層経費高となるため不適当である。その上、中之口上水道には給水余力が

実 績 発 表 会

鴻巣村農業改良クラブ連盟主催で去る二月八日実績発表大会が開催され、農事の研究突進及びクラブ活動の実績が発表されました。第一位を得られた馬方のあゆみグループ(代表山口千代)によって発表された。要旨は次の通りであります。

私達のグループ活動

私達「あゆみグループ」は三十四年の春畑作研究グループとして誕生いたしました。その結成の主な理由といたしまして

- 一、自家用野菜を十分に取れた。
- 二、農薬の使い方と合理的な施肥法を勉強したい。
- 三、早期栽培の研究をした。
- 四、お互いの技術交換をしたい。
- 五、近代農業におくれないように。

以上五つの目的を持って結成されました。従来の農薬は米作り一本槍でたく畑作等は軽視され、自家用野菜位充分取れる土地を持ちながら時には野菜まで買って食べるという情けない状態だったので。

これでは栄養の面からも、また家計の面においても合所をあつかう私達女性にとっては誠に不都合であり、何とか自分達の力でこれを打開しようという気の合った者同士の結成したのがこの「あゆみグループ」であります。次にグループの概要を説明いたします。

す。私共は小グループであります。が、後日のために規約を作成してあります。

構 成 人 員	15 名
親 侍	8 名
主 婦	7 名
年 令	30~35 6名 35~40 9名

それらがグループ員が必ずしもってゆかねばならぬ申し合せ事項を御参考までに紹介いたします。

- 一、グループを愛し、お互いに協力する事。
- 一、つまらぬ批判にこだわらぬこと。
- 一、よいと思う事はメモをし、実行して見ること。
- 一、活発に自分の意見を発表すること。
- 一、時間を守る事。
- 次に今までの活動状況を説明いたします。第一年目の主なる活動は
- 一、肥料の特性とその施肥法
- 二、ソ菜の作り方
- 三、新種園芸試験場見学
- 四、保存食と改良作業衣
- 五、共同購入

なく、食生活から共同購入へと自然生活改善の方向にまで発展して行ったのであります。このように私共のグループ活動が活発になるにつれて思いもよらぬ批判の目が向けられてきたのであります。

主なる批判

- 一、あれはカカ天下グループである。
 - 二、グループを作って婦人会を攪乱する。
 - 三、共同購入は農協を利用しない。以上のような話題が至るところにおき、一部のグループ員に圧力がかかり、会合を持っても出席がわるく全く解散寸前の状態におちいってしまったのであります。それで皆で話し合い、生産のみ打込み事にして活動をつづけたのであります。
- 「第二年目の主なる活動は」
- 一、温床の作り方
 - 二、土壌調査の実施
 - 三、病害虫の防除法
 - 四、保存食

判の声も下火となりました。そこで皆が今一度発足当時の申し合せ事項を思い起こし、お互いに仲良くがんばろうと励まし合い、一人の落伍者もなく第三年目を迎えました。

第三年目の活動は

- 一、温床による早期栽培の研究
- 二、栄養及び保存食
- 三、商品価値のある野菜作りの研究
- 四、にんじんの共同栽培
- 五、自家用野菜は充分と知り、そろそろ自家用野菜は充分と知り、そろそろ出来たものは売ります。此のころになりますと、批判の声も下火となりました。そこで皆が今一度発足当時の申し合せ事項を思い起こし、お互いに仲良くがんばろうと励まし合い、一人の落伍者もなく第三年目を迎えました。

の力ではやれる。二、自分達の身近な事から研究できる。三、年代の一致から同じ目的を持つ人だけ集まられる以上であります。またグループ活動する上に大切なことは

- 一、皆で仲良く
 - 二、得た技術は自分だけのものにして、にしないで皆に教えるようにする。
 - 三、出荷体制の確立を研究する。
 - 二、商人としての農業の在り方を研究する。
 - 三、出荷体制の確立
- 今や農業基本法の制定により、農業も大きく変わりつつあり、どのようにして営農を合理化し、また近代化して行くかという事は唯単に男子だけでなく農民一人一人が真剣に考えなければならぬ問題であります。
- その意味からも私達グループも基本法を基礎とした営農全般の勉強にも力を入れて行きたいと思っております。そして私達の作った野菜が自動車で市場に運ばれ、やがては馬方特産として食糧をにぎわす目の近からんことを夢見つつ近代農業におくれないよう一歩一歩前進して行きたいと思っております。
- あゆみグループ 山口千代

あ と が き

忙がしい春耕期が参りました。野良の一休みに、何とぞ「役場たより」を御開き下さい。